共にしあわせ産みだす日本共産党

市議団ニュース

第２１４５号
２０２５年6月２９日
日本共産党根室市議団
根室市宝林町４－２０３
TEL ２３－６０２３
FAX ２４－１６８４

文教厚生常任委員会

歯舞湿原を視察

根室市議会文教厚生常任委員会（委員長：鈴木一彦）は 25 日、「歴史と自然の資料館」の外山雅大学芸員を講師に、歯舞湿原の視察を行いました。

上の写真はイソツツジ。高山植物の位置づけですが、歯舞湿原では普通にみられます。

歯舞湿原は、根室半島歯舞地区に広がる湿原です。以下、「歴史と自然の資料館」作成のリーフレットから紹介文章を抜粋させていただきます。

歯舞湿原は環境省が選定する『生物多様性の観点から重要な湿地』に選ばれている根室半島湿原群の一つです。市街地以東の根室半島では最大の湿原になります。これまでの調査で48科163種の維管束植物が記録され、そのうち20種が絶滅危惧種として環境省のレッドリストに記載される種であり、希少な植物が数多く生育しています。また、約1万2千年もの長い時間をかけて形成され、低標高に成立した国内唯一のブランケット型湿原※でもあり、地学、地史的な見地からも非常に重要な場所です。

しかし近年、周辺の開発がすすみ、歯舞湿原にもその影響が及ぶことが危惧されていました。そのため、根室市教育委員会では歯舞湿原を根室市指定天然記念物とし、その保全を図ることとしました。

※国内唯一のブランケット型泥炭地

多くの湿原が川の氾濫原など水のたまりやすい平坦な土地にできるのに対して、歯舞湿原は台地上の穏やかな傾斜の上を泥炭が覆い形成されています。基盤地形の起伏をブランケット（毛布）をかけたように泥炭が覆うような場所はブランケット型泥炭地と呼ばれています。ブランケット型泥炭地はスコットランドやノルウェーなど低温で降水量の多い地域でみられます。国内の低地でブランケット型泥炭地が確認されているのは歯舞湿原のみとなっています。霧が多く、低温・過湿な根室独特の気候が作りあげたものだと言えます。

今の季節はワタスゲが見頃です。ワタスゲは、酸性度が高い湿原には育ちません。以前、民間事業所が歯舞湿原の一部を畑（？）にしようとして、重機で湿原を掘り返していましたが、あまりにも水が多く出て、畑（？）は断念したようです。放棄された土地にはワタスゲが咲き誇っていました（左の写真。わかりづらいですが、写真中央下部には重機で掘り返された跡が残っています）。

ようやく緑が戻り、ワタスゲも咲きましたが、湿原に戻るには２００年以上かかるとのことです。

また、歯舞湿原が維持されていくためには、霧と雪が重要な役割を果たすそうですが、最近の根室の霧や積雪の減が湿原に及ぼす影響も不安視されています。

いずれにしても、生物多様性や水の循環、ＣＯ２削減に重要な歯舞湿原を守っていかなければなりません。